

産総研臨海副都心センターと情報通信・エレクトロニクスの研究概要

○伊藤 日出男*1)

1. はじめに

独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）は、平成13年4月に経済産業省系の国立研究所が統合され発足した、国内最大級の公的総合研究機関である。産総研では研究の対象となる産業を情報通信・エレクトロニクス分野および他の5分野に区分し、合計42の研究ユニットが研究を推進している。

産総研と都産技研は、のべ18件の共同研究を実施すると共に、平成19年12月26日には協力協定を締結し、より緊密な関係を構築している。

2. 臨海副都心センター

産総研は研究の拠点として、つくばセンターに加え全国8か所に地域センターを配置し、それぞれ特色のある研究を進めている。産総研臨海副都心センター（図1）は平成13年に東京都江東区青海に設置され、関東における唯一の地域センターとしてバイオとITの融合を旗印に研究を推進している。臨海副都心センターには、生命情報工学研究センター（RC）、バイオメディシナル情報RC、デジタルヒューマン工学RC、そしてサービス工学RCの4つの研究センターと、技術研究組合3組織が配置されている。

3. 産総研の情報通信・エレクトロニクス研究

情報通信・エレクトロニクス研究は、産業全体に共通の重要な研究領域である。このため、産総研においても11の研究ユニットで構成される研究分野として研究活動を推進しているだけでなく、他の研究分野の中にも情報通信・エレクトロニクスの研究を実施している部署がある。本発表ではその中のいくつかの研究の概要と成果について述べる。例えば、デジタルヒューマン工学RCでは、都産技研のシステムデザインセクターと連携して、平成24年3月にクリエイティブ産業活性化ワークショップを開催した（図2）。また、ヒューマンライフテクノロジー研究部門における、触れる立体テレビシステム技術（図3）やカメラ映像からの来場者デモグラフィック調査技術（図4）等の研究を進めている。

4. まとめ

産総研臨海副都心センター、および産総研における情報通信・エレクトロニクス研究の概要について述べた。産総研はこれからも都産技研など外部との連携を取りつつ、「社会の中で社会のために」貢献していきたい。



図1. 産総研臨海副都心センターの外観

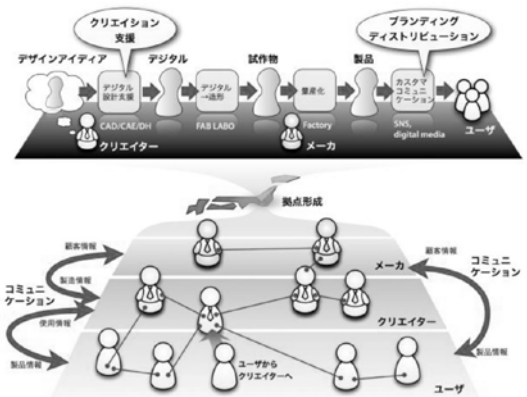


図2. 工業デザインにおけるブランディング、ディストリビューション、クリエイションの拠点形成構想



図3. 触れる立体テレビやAR

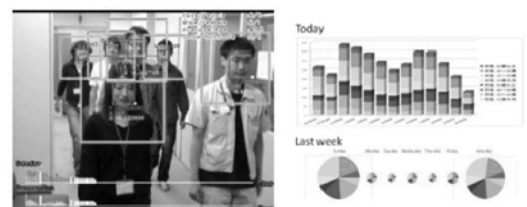


図4. 来場者デモグラフィック調査技術

*1) 独立行政法人産業技術総合研究所臨海副都心センター